

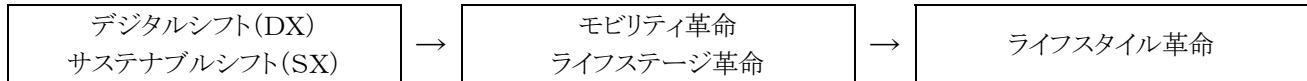
視点(2406)

次世代型自動車と次世代型SC!!

(SC理論編)

(1) 次世代の概念

2050年の温室効果ガス排出の実質ゼロに向かって、世界及び日本の経済が進んでいます。2030年が中間ポイントの年度(近未来)で排出30~50%が目標とされています。各業界は過去の延長線上ではない「次世代型ビジネスモデル」の開発に挑戦しています。次世代型ビジネスのキーポイントは次の通りです。



現在、自動車業界で次世代型自動車が過去の延長線上ではない大変革で開発され普及しようとしています。我々のSCも次世代型SCが過去の延長線上のレベルではない大変革を求められていますので、次世代の先進産業である自動車の産業の方向性を参考事例として示します。

(2) 次世代型自動車のコンテンツ

今、開発され普及しつつある次世代型自動車は次のコンテンツを持っています。

- ①電気自動車化→ 脱・炭素系燃料による電気及び水素ガス化
- ②自動車運転化→ 自動運転による安心(快適)安全(無事故)運転化
- ③コネクティッド化→ 自動車のIoT化やアプリとの連結による自動車のプラットフォーム化及びサブスクリプション化
- ④斬新なデザイン化→ 脱・自動車のデザインでスマート&スタイリッシュのマイノリティデザイン化
- ⑤新生産システム→ 自動車の生産システムを従来型の完成車メーカーと部品メーカーの関係から、企画・開発会社と生産受託会社のサプライチェーンシステムの変革化(自らは設計に専念し、受託製造サービスEMSの企業に生産を任せる→水平分業モデル・脱・垂直結合モデル)
- ⑥価格破壊ビジネス化→ 大幅な部品数の削減化とサプライチェーンシステムの改革により価格は5分の1となる(自動車業界のカテゴリーキラー化)

(3) 自動車業界のカテゴリーキラー

2019年の自動車の世界販売ランキング及びカテゴリーキラーは次の通りです。

	社名	販売台数
1位	フォルクスワーゲン	1,097万台
2位	トヨタ自動車	1,074万台
3位	ルノー・日産・三菱連合	1,015万台
4位	ステランティス(PSA+FCA)	789万台
5位	ゼネラルモーターズ	771万台
6位	現代自動車	719万台
7位	フォードモーター	538万台
8位	ホンダ	517万台
9位	ダイムラー	334万台
10位	スズキ	300万台

テスラ
アップル
百度(バイドゥ)
ソニー

← カテゴリーキラー ←

次世代型自動車は、既存の自動車メーカーによる次世代型自動車づくりは、出身の異なるハイテク企業(ICT企業)による次世代型自動車づくりが既存の自動車企業と激しい新旧の入れ替わり競争をくり返しながら進化しています。まさに、既存企業とカテゴリーキラー企業の新陳代謝競争です。

(4) SC業界への波及

アメリカでは流通業界の覇権争いがハイテク企業出身のアマゾン(ECモール)と小売業出身のウォルマート(DS)の間に起こっています。

一方、SCの分野で見ると出身企業別のSCは次の通りです。

- ①アメリカでは、小売業出身のSC企業は1970年代に削減し、現在は不動産出身のSCのみです。現在はリアル出身のサイモンプロパティとウエストフィールドとハイテク出身のアマゾンが次世代型SCに挑戦しています。
- ②日本では、現在型のリアル出身のイオンモールや三井不動産とハイテク出身のアマゾン、楽天、ヤフーの2つのタイプが可能性を持っています。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺₈
代表 六 車 秀 之